



平成27年1月発行
新年号みどり

謹賀新年

あけましておめでとうございます

平成27年1月1日(木曜日)

理事長 太田 正幸

今年は未年です。羊は、「穏やかで人情に厚い」ことを指し、私どもが終始一貫して目標としてきた当法人のあり方です。

当法人には、明石土山病院、介護老人保健施設〔希望〕他社会復帰施設等様々な施設があります。

どの施設も、不幸にして心を病まれた方、認知症になられた方、介護の必要な方、退院しても帰る場所がない方等の心の癒しの場として設けてあります。

いつでも、頼ってくださって結構ですので、お気軽にご相談ください。それが私どもの最大の社会的使命と確信しています。

今年も、皆様方、こころ穏やかに過ごせるよう祈念しております。



肺結核

かつて不治の病であった結核は抗結核薬の登場により治療が可能となった。しかしながら、結核対策の遅れもあって我が国は先進国の中であって今だに結核中蔓延国である。特に大阪府や兵庫県は結核罹患率が高い。「結核は過去の病気ではない」とのスローガンのもと対策が講じられてはいるが、結核病棟の縮小、専門医が少ないなどきびしい状況である。近年は多剤耐性結核も出現し治療が困難なケースもある。新しい結核の検査法としてIGRA (QFT、T-スポット)が使用されるようになってきた。結核菌特異抗原によりリンパ球を刺激後産生されるインターフェロンを測定し結核感染を診断するものである。ツベルクリン反応より特異度は高く診断制度は上がっている。しかしながら活動性結核と潜在性結核の区別ができない、判定保留となることがあるなど問題点も多い。院内感染対策として職員健診、接触者健診への導入がすすめられているが、既感染率の高い高齢者では施行すべきかどうか、判定保留となった場合の対応など課題も多い。喀痰等の症状がなく、胸部レントゲンも異常がなく、IGRAが陽性の場合どうするのか。すべて潜在性結核と考えて予防投与を行うのか。専門医の間でも意見が分かれるところである。

鳥インフルエンザ

韓国の農場で流行していた鳥インフルエンザ (H5N8) が11月に入って、日本各地で渡り鳥のフンから検出されている。H5N8は東南アジアで流行しているH5N1と同じく高病原性鳥インフルエンザである。H5N8はヒトへの感染はおこりにくいと言われる。しかしながら鳥を扱う市場、養鶏場などで鳥と濃厚接触をおこしたときに、排泄物や体液を介して感染する危険はある。今後ウイルスの変異により容易にヒトへ感染するようになり、さらにはヒトからヒトへ感染をおこすようになる可能性がある。H5N1、H5N8ともに高病原性鳥インフルエンザは抗インフルエンザ薬が有効と考えられるがH5N1では致死率も高くパンデミックに備える対策が必要である。我が国では、高病原性鳥インフルエンザ (H5N1) に対するプレパンデミックワクチンが備蓄されてはいるが、その有効性や備蓄数には問題が残る。

精神科病院での感染対策

我が国を取りまく感染症の状況において精神科病院 (精神科病棟) の感染対策はいかにあるべきだろうか。当然、精神科病院がエボラ出血熱のような病原

性の高い感染症に対応できるはずはないし、そのような患者を受け入れ治療することは不可能である。しかしそのような感染症の院内への侵入を防ぐ予防的な立場からは、十分に情報、知識を得ておくことが重要である。また再興感染症である結核、季節性に流行するインフルエンザやノロウイルス、MRSAなどの耐性菌についてはこれまで以上に対策を講じることが必要となる。精神科病棟で感染対策をおこなっていくうえで、さまざまな問題点がある。当然のことながら精神疾患の治療が優先されるし一般病院での対策とは異なる面もある。精神状態によっては患者が感染予防対策(手洗い、マスク、外出制限など)に協力的でないこともあるし、安静を保てず動きまわり病棟内に感染拡大を引き起こす危険もある。患者の高齢化や身体合併症により感染リスクは高くなっている。一般病院から転院してきた患者の耐性菌の持ち込みも問題となる。感染症専門のスタッフが少ないのも感染対策を困難にしている。院内感染対策としてインフルエンザや肺炎球菌のワクチン接種は重要であり、当院でも積極的に接種をすすめている。近年、麻疹、ムンプス、風疹が学校や職場で流行することが増加しており、当院でも入職時に抗体価をチェックしワクチン接種を行っている。そして何より重要なのが、手洗い(手指消毒)、うがい、マスクなどの標準予防策である。その徹底のために感染対策の教育は極めて重要である。職員教育は精神科病院においても頭の痛い問題である。ICN(感染管理看護師)の認定制度もあるが、そもそも身体科一般病院の看護師を対象とした制度であり、精神科病院に勤務する看護師が資格を取得するのは困難な状況にある。精神科病院においては看護師長や教育担当看護師が必ずしも感染症に十分な知識を持っているとは限らない。素人が素人を指導するということもおこりうるのである。そのため、院内感染対策を踏まえた職員配置ができない。感染症患者の病室を不用意に移動させたり転棟させたりして、病状悪化や感染拡大をおこしてしまう。初動の遅れでインフルエンザやノロウイルスの感染拡大をおこしてしまう危険がある。当院ではICD(感染管理医師)、内科、呼吸器、消化器の専門医の資格を有する医師(非常勤を含めて内科医3名)が診療をおこなっている。また、院内感染対策講習会や感染対策病棟ラウンド等を実施している。単にノルマとして参加するということだけでなく職員各人が主体的に行動してくれることを願っている。

一部私見を混じえて最近の感染症のトピックス、精神科における感染対策について述べた。医師向け、看護師向け、一般向け、それぞれに感染症に関する成書が多数出版されている。興味のある方、この雑文に疑問を感じる方は成書を一読されることをおすすめする。

レクリエーション委員会 活動報告

土山祭

平成26年11月14日(金曜日)

平成26年11月14日(金)に、太田正氣記念館にて土山祭が開催されました。

“冬物の衣類が欲しい”との患者様の声を受け、“古着市”として開催していましたが、喫茶コーナー、ゲームコーナーを設けてから行事名を“土山祭”としました。

制限時間内は1人5枚まで、値段は今年から1枚20円としました。その為か患者様もより熱心に吟味しながら、買い物をされており良い機会になったのではないかと思います。また、今年は特に多くの部署より、秋冬物の普段着やコート、手袋など一段と患者様に喜んで頂ける衣類が集まりました。職員の皆様のご協力に深く感謝致します。

今後とも、ご協力の程どうぞよろしくお願い致します。



クリスマス会

平成26年12月15日(月)・16日(火)

毎年12月にOT行事としてクリスマス会を行っています。
今年は少し早いですが15・16日の2日間にわたり開催しました。

クリスマス会では、ビンゴゲーム・年間写真ムービーが上映されました。

ビンゴゲームでは大小様々なプレゼントが用意されており、患者様は真剣なまなざしで選ばれた数字と、自身が持っているカードを見比べ一喜一憂されていました。ビンゴが当たった方も当たらなかった方も、サンタクロースに変装したOTスタッフからプレゼントを受け取り、とても素敵な笑顔が見られました。

年間写真ムービーでは、今年一年のレク行事、OT行事などで撮り貯めた写真を編集し、一年間の思い出を動画にして上映しました。みなさんの表情がスクリーンに映ると、恥しそうに照れながらも楽しまれていました。

各病棟の職員・レク委員の方々のご協力もあり、多くの患者様が参加できました。今後共ご協力の程宜しくお願い致します。



〒974-0074

兵庫県明石市魚住町清水2744-30

TEL:078-942-1021

FAX:078-941-1573

E-mail : info@athp.jp

基本理念

『人間愛に満ちた医療と愛情こもる看護・介護』



医療法人社団 正仁会

明石土山病院・介護老人保健施設 希望
つちやま訪問看護ステーション・宿泊型自立訓練事業所 みどり寮
共同生活援助事業所 グループホーム ノア

ホームページも是非ご覧下さい

パソコン・スマートフォン <http://www.athp.jp/>
携帯用サイト <http://www.athp.jp/i/>

